
彼からの最初で最後の手紙

イタカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼からの最初で最後の手紙

【Nコード】

N4583G

【作者名】

イタカ

【あらすじ】

雅樹が交通事故で死んだ。その死んだはずの雅樹から唯に手紙がくる。

幼なじみの雅樹が死んだ。

享年17歳。

死因は交通事故だった。

原因は……私。

私がいけなかったんだ。私のはしゃぎ過ぎて、周りをすっかり見ていなかったから……知らないうちに、ちょうど青信号になった車道に出てしまっていたから……私に向かってくる車から私を庇って雅樹は車道に出て、その車に跳ねられて死んだ。即死だったそう
だ。

雅樹のご両親も、私の両親も、友達も、みんな私を責めなかった。

「唯は悪くないよ。雅樹が死んだのは、間が悪かっただけなんだよ」これが私を慰めるためだけの表面上の言葉だというのはわかっていた。

毎日夜になると隣の雅樹の家から泣き声が聞こえてくるからだ。

私は、雅樹にも雅樹のご両親にも申し訳なくて、せめてもの償いにならないかと自殺をしようと思ったこともあった。

そんな時だった。死んだはずの雅樹から手紙が届いたのは。その手紙は雅樹の母親が私に持ってきた物だった。

「雅樹の部屋をね、掃除してたら出てきたの。宛名が唯ちゃんになつてたから……」

無理してつくっているのがわかる笑顔で私にその手紙を渡した。私はその手紙を受け取り、自分の部屋で手紙の封筒をひらいた。

『唯へ』

久しぶりに見る雅樹の字。

決して綺麗な字ではない、雅樹の字。
その字をみただけで、私は涙が出そうだった。

『唯へ

手紙とか書いたの久しぶりで、どうやって書いたらいいかわかんね。

っーかいきなり手紙とかごめん。家隣なんだから話しにこいって感じだよな。

で本題なんだけど、俺さ東京の大学行こうと思ってる。興味ある学科があるんだ。

唯、一緒の大学行こって言うてくれてたのにごめん？

最初は直接言うつもりだったんだが、顔合わせるとどうも言い出せなくて。

だから、手紙。

唯も一緒に行きたいけど、そこまで強要できないからな。

じゃ、そんだけだから。

また明日学校で。』

私の目からは、いつの間にか涙が溢れていた。涙が手紙におち、水玉模様をつくる。

私が雅樹の夢を潰したんだ。

あの勉強嫌いだった雅樹が自分から勉強したいと思ったのに。

「唯と一緒のところでいい」と大学に興味も何もなかった雅樹が自分で大学決めて、やっと人生これからだと思った頃だったかも知れないのに。私が、雅樹の夢を潰したんだ……

「ふえ、ま……雅樹……雅樹いいい！」私は部屋で泣き叫んだ。

「ごめん……ごめんね雅樹！雅樹！返事してよ！まさきいい！」

返事が返ってくるわけなのに、私は大声で泣いた。

泣いて、泣いて、泣きすぎて、喉が潰れた。思うように声が出ない。まだ泣きたいのに、まだ泣き足りないのに、声が出ない。涙も渴いた。

悔しい、虚しい、哀しい、いろんな感情がグルグルと心の中を蠢く。

そして冷静になり気付いた。

私は、一人なんだ……

(後書き)

なんかぱっと思いついた話なのでよくあるような展開だと思います；
急いで書いたので誤字等あるかも知れませんが。あつたら教えてくださいだ
さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4583g/>

彼からの最初で最後の手紙

2010年10月10日01時32分発行